

令和 5 年 2 月 24 日

教 育 長 様

研究コース	
B グループ研究B	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
661456	
選定番号	218

代表者	校園名 :	大阪市立今里小学校
	校園長名 :	松永 かおり
	電話 :	06-6981-8800
	事務職員名 :	栗田 有加
申請者	校園名 :	大阪市立今里小学校
	職名・名前 :	主務教諭 池内 一尊
	電話 :	06-6981-8800

## 令和 4 年度 「がんばる先生支援」 研究支援 報告書

◇令和 4 年度 「がんばる先生支援」 研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	B グループ研究B	研究年数	継続研究（3年目）
2	研究テーマ		「G I G Aスクール構想」を想定した 遠隔授業による新しい授業スタイル創造		
3	研究目的		<p>○遠隔授業を通して、児童が主体的にまとめた情報を発表・交流し、自分たちが収集した情報や作成した資料と比較・検討することでより深い学びへつなげる。            ・今里小学校と中津小学校            ・今里小学校と他地域・他校</p> <p>○遠隔授業に必要な機器・環境整備をすすめる。</p> <p>○各校で実施した遠隔交流授業・遠隔合同授業について、実践交流し、効果的な授業展開について研究する。</p> <p>○児童の家庭とのオンライン授業を試行実施し、効果的なオンライン授業のスタイルについて検討する。</p>		
4	取り組んだ 研究内容		<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSコ*シック 9.5ホ*イド)</p> <p>遠隔合同授業、クラウド上での交流などの形で実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年 昼休み交流(月1回) 学校紹介、しりとり、じゃんけんなど</li> <li>・1年 学活「学習したことをつたえよう」(チーム今里小・2月)</li> <li>・2年 生活「町のすてきをつたえよう」(チーム今里小・10月)</li> <li>・3年 社会・総合「買い物調べについて報告しよう」(中津小・10月)</li> <li>・4年 国語・総合「調べたことを報告しよう」(東中本小と今里小・1~2月)</li> <li>・5年 国語・総合「環境問題について報告しよう」(チーム今里小・6, 7月)            社会「米作りのさかんな地域」(和歌山の農家とチーム今里小・9月)            社会「自動車工場の仕事」(自動車メーカーと今里小・10月)            国語・総合「和の文化をうけつぐ和の文化を伝えよう」            ジュニアEXPO(東中本、チーム今里小・11月)</li> <li>・6年 道徳「NHK for school ココロ部」(新上五島小・9, 10, 11, 12月)            総合「将来の夢について話そう」(園田学園女子大学・10月)            国語「町の幸福論」(新上五島小、対馬小・11月)            国語「世界に目を向けて意見文を書こう」(東中本小・12月)            社会・総合「長崎原爆について」(新上五島小、対馬小・2月)            国語「心が動いたことを十七音で表そう」(東中本小・1月)</li> </ul> <p>○遠隔授業アンケート(中津小・今里小・交流校の児童と教員 交流事後)</p> <p>○合同研究会(東中本小と今里小・8月) 実践交流と研究協議</p> <p>○授業研究会(今里小 5年社会・10月、6年総合・11月)</p> <p>○公開授業研究発表会(オンライン 6年総合 11月)</p> <p>○実践報告(柏原市視聴覚研究部に向けて)</p> <p>○学級休業時やコロナ対応等での欠席児童の家庭と各教室とをつなぎ、遠隔授業を行った。(通年)</p>		

5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。					
		日程	令和4年11月28日	参加者数	約20名		
		場所	大阪市立今里小学校				
		備考	オンラインによる発表				
		大阪市教育振興基本計画に示されている、子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。					
<p><b>【見込まれる成果1】</b>  <b>他校との交流によるコミュニケーション能力の向上</b></p> <p>《検証方法》</p> <p>交流後の児童アンケートで、「他校との交流で考えを広げたり、深めたりできた」の肯定的回答回答を90%以上にする。「他校との交流で学んだことは何か」で具体的に記述する割合を90%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>中津小、東中本小や他県離島の小学校との遠隔交流を実施し、児童が主体的にまとめた情報を発表・交流し、自分たちが収集した情報や作成した資料と比較検討することでより深い学びへとつなげることができた。交流後の児童アンケートで、「他校との交流で考えを広げたり、深めたりできた」の肯定的回答回答は、84%と目標の90%を上回ることはできなかった。しかし、「他校との交流で学んだことは何か」の具体的な記述はほとんどの児童が記述しており、「聞き取りやすいように意識して話した。」「自分たちの地域とくらべて、改めて自分たちの地域の良さに気づけた。」などと遠隔交流に大きな効果があったことがわかる。</p>							
		<p><b>【見込まれる成果2】</b>  <b>遠隔授業に関する教員の指導力向上</b></p> <p>《検証方法》</p> <p>3年生以上で年間1回以上遠隔授業を計画実践する。実践後の教員アンケートで、「遠隔授業で主体的対話的な学習に効果があった」の肯定的回答回答を、研究メンバー、交流校とも80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>3年生以上で年間1回以上遠隔授業を実施するという目標であったが、低学年でも離島との遠隔交流を実施したり、遠隔授業で効果が得られそうな単元については適宜授業を実施したりと積極的に行うことができた。実施後の教員アンケートの「遠隔授業で主体的対話的な学習に効果があった」の肯定的回答回答においては、研究メンバー、交流校とも90%以上であった。目標の80%を上回ることができた。</p>					
		<p><b>【見込まれる成果3】</b>  <b>交流校においても遠隔授業に必要な環境を整備し、必要な場合に効果的に活用することができる。</b></p> <p>《検証方法》</p> <p>交流校でのアンケートにおいて、遠隔授業の環境整備について「前年度より推進した」との回答を得る。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>交流校と本校とで、遠隔授業に必要な物を協議し環境を整備することができた。その結果、遠隔授業をスムーズに行うことができた。交流校からも、遠隔授業の環境整備について「前年度より推進した」との回答を得られることができた。</p>					

6 成果・課題	【見込まれる成果4】  《検証方法》  〔検証結果と考察〕
	【見込まれる成果5】  《検証方法》  〔検証結果と考察〕
	【研究全体を通した成果と課題】 具体的に記載してください。 【成果】 ○遠隔授業を通して、児童が主体的にまとめた情報を発表・交流し、自分たちが収集した情報や作成した資料と比較・検討することでより深い学びへつなげることができた。 ○他校に本校の環境設備を伝え、共通した遠隔授業に必要な機器・環境整備を進めることができた結果、スムーズに交流を進められた。 ○これまでに実施した遠隔交流授業・遠隔合同授業についてまとめ、年間計画を作成し進めたことにより機会を逃さず、効果的に授業を実践することができた。 ○児童が様々な相手と交流する機会を持ったことで、多様な意見に触れることができ、深い学びへと結びついた。遠隔交流時には、目の前の相手ではなく、画面の向こう側にいる相手に伝えようとする意識が大変高まった。 ○他校、他地域との交流だけではなく、登校できない場合や、不登校や長期欠席児童に対しての遠隔授業も日常的に取り組めるようになり、遠隔授業に対しての教員の指導力向上に結び付いた。
	【代表校園長の総評】 本研究では、全学年で遠隔授業を実践することができました。大阪市内の小学校だけでなく、他県の小学校との遠隔交流・遠隔合同授業をすることで、他の学校の児童の多様な考えに触れることができ、自分たちが収集した情報や作成した資料と比較・検討することで、改めて自分たちの住む地域の良さを知ったり、他の地域との違いを発見するなど深い学びにつなげることができました。また、児童は積極的に情報を収集し、まとめ、発表・交流することで、相手に伝えるために、はっきりゆっくりと話す・わかりやすい資料を作成することなどを意識し、実践できるようになりました。 本研究を通して教員の授業力が向上し、どの学年でも遠隔授業・遠隔合同授業ができるようになりました。